

特集1：管理胚培養士セッション ～日ごろのラボ業務からもう一歩先へ～

特集2：PGT-Aの是非

本号は新たに生まれ変わったJMORの第2号となります。新生JMORは日本語の論文を主体に、読者の皆様に最新の知識を分かりやすく解説する総説や、日々の研究、臨床のヒントとなるような原著論文、様々な解説を掲載していく予定です。

本号では新たな試みとして、現在管理胚培養士としてご活躍されている方に、胚培養士として日常業務のなかで工夫している手技や方法について興味深い内容を解説いただきました。また、もう一つの特集としては、最近注目されている着床前診断 (PGT-A: Preimplantation genetic testing for aneuploidy) について、造形の深い先生方にディベート形式による総説をお願いしました。PGT-Aは様々なメリットがありますが、その技術的限界やピットフォールを十分理解しないで運用することは、患者の不利益につながる可能性があります。このディベートを基に本誌の読者の皆様には、今一度PGT-Aについて確認していただき、その運用の一助としていただければ幸いです。

新生JMORは今後様々な新しい試みを取り入れ、読者の皆様に愛される雑誌を目指して行きたいと思っております。何か良いアイデアをお持ちの方は是非編集委員会まで御連絡を下さい。

日本卵子学会編集委員会
河村和弘